

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.115

(2016年2月刊行)

Can School-Based Management Generate Community-Wide Impacts in Less Developed Countries? Evidence from Randomized Experiments in Burkina Faso

Yasuyuki Todo, Eiji Kozuka, and Yasuyuki Sawada

Research Project: [JICA 事業の体系的なインパクト分析の手法開発](#)

■付加価値

1990年代以降、多くの途上国において、学校運営に関する権限を中央政府から学校レベルに委譲する「自律的 school 運営 (School Based Management : SBM)」と呼ばれる政策が導入されてきた。SBM の効果に関する実証分析では、プロジェクト内容や地域の状況によって異なる結果が出ており、今後もエビデンス (科学的根拠) を蓄積していく必要がある。本研究では、JICA の代表的な SBM プロジェクトである「みんなの学校プロジェクト」を対象として、ブルキナファソでランダム化比較試験 (Randomized Controlled Trial: RCT) を実施し、その効果が学校教育という枠を超えてコミュニティに与えるインパクトを厳密に評価した。本研究は JICA が実施した最初の大規模なランダム化比較試験の一つであり、SBM が生み出す幅広い社会的効果をめぐる議論の進展に貢献するとともに、本研究をきっかけに JICA においてエビデンスを活用した事業展開が進むことが期待される。

■リサーチ・デザイン

ブルキナファソ・ガンズルグ県内の小学校をトリートメント群とコントロール群の2グループにランダムに割り振り、トリートメント群で介入を実施した。トリートメント群では、地域住民の選挙により学校委員会のメンバーを選び、各学校の課題を改善するために委員会と地域住民が様々な活動を実施した。この効果を計測するため、校長、教員、生徒及び親に対するインタビュー調査を介入の前後に実施した。

このプロジェクトの直接の目的は教育の改善であるが、児童の親だけではなく地域住民が一体となって学校を改善する参加型プロジェクトであるために、地域住民間の信頼関係の向上など地域の社会関係資本に対する副次的な効果も期待される。さらに、地域の信頼関係が向上することで、地域で金銭的な助け合いが進み、インフォーマルな金融制度である回转型貯蓄信用講 (ROSCA) が促進される可能性がある。ROSCA とは、参加者が定期的に会合を開いて全員が一定額を拠出し、毎回異なる参加者が総拠出額を得るというものであり、多くの途上国で広く観察される代表的なインフォーマル金融である。本論文は、「みんなの学校」プロジェクトが地域住民間の信頼感や ROSCA への参加にどのような影響を生み出したのかを分析した。

■主な結論 (政策的含意を含む)

分析の結果、みんなの学校プロジェクトによって地域住民間の信頼感が増加し、特に所得の低い親は ROSCA をより活用するようになったことが発見された。これは、このような住民参加型プロジェクトによって地域住民の社会関係資本が改善し、インフォーマルな金融制度が発展することを示唆している。途上国においては、フォーマルな金融市場が発展していないために、インフォーマルな金銭的な相互扶助が病気などによる一時的な所得減少をカバーし、社会的厚生を改善することが知られている。この論文は、途上国における市場の未発達による問題を地域の共同体が緩和する働きを、参加型援助プロジェクトが助けることを示している。したがって、援助プロジェクトの実施・評価の際には、このような副次的な効果を十分に考慮する必要がある。